

本書の使い方

本書は、これから乙種第4類危険物取扱者試験を受験する皆さんが、短期間で効率よく合格する実力を身につけるための本です。7日間で完成するように構成していますが、早ければ3日間、じっくり取り組むなら10日間かけて学習してもかまいません。自分のペースで楽しく学習しましょう。

1～4日目 基礎知識をインプット

試験に出る重要項目を基礎から学習します。要点をまとめた「楽ちん！ポイント攻略」で必要な知識をおさえましょう。

**楽ちん！
ポイント攻略**
重要項目を効率よくインプット。赤シートに対応しているので、暗記にも役立ちます。

重要度
各節の重要度を3段階に分類。

わかりやすい解説
各節は原則として見開き2ページで構成。わかりやすい文章と図解で解説しています。

赤シート

1 危険物を分類すると…

ポイント攻略

- 第1類は「**酸化性液体**」である。
- 第2類は「**可燃性液体**」である。
- 第3類は「**自然発火性液体**」及び「**発火性液体**」である。
- 第4類は「**引火性液体**」である。
- 第5類は「**自己反応性液体**」である。
- 第6類は「**腐化性液体**」である。
- 危険物はすべて常温で「**液体**」または「**固体**」である。

分類	性質	危険性の説明
第1類 酸化性液体	酸化性	物質を強く酸化させる性質をもつ。可燃物に接すると燃焼を促進し、強い炎を発生させる。また、皮膚に接触すると深刻な火傷の原因となる。
第2類 可燃性液体	可燃性	火をつけると、簡単に燃え広がる液体。また、蒸気も燃える。燃焼温度は40℃未満で引火しやすいため、危険。
第3類 自然発火性液体及び発火性液体	自然発火性・発火性	空気中に露出したときに自然発火（自燃）し、燃焼を引き起こす液体。また、引火しやすいため、危険。
第4類 引火性液体	引火性	引火点のある液体。ガソリンや灯油など。
第5類 自己反応性液体	自己反応性	不安定な物質で、加熱や衝撃によって、多量の熱を発生し、燃焼的に関与する性質をもつ液体（発熱性）。
第6類 腐化性液体	腐化性	物質を強く酸化させる性質をもつ。他の物質と接触すると腐食作用を促進させる液体。

チェック問題！ 確認がしな

次の文章の正誤を判断し、正しい文章にチェックを。

- 危険物は、燃焼性・爆発性・毒性・腐食性・刺激性・環境汚染性の6つの性質を併せ持つものである。正誤：正
- 危険物は、燃焼性・爆発性・毒性・腐食性・刺激性・環境汚染性の6つの性質を併せ持つものである。正誤：正
- 危険物は、燃焼性・爆発性・毒性・腐食性・刺激性・環境汚染性の6つの性質を併せ持つものである。正誤：正
- 危険物は、燃焼性・爆発性・毒性・腐食性・刺激性・環境汚染性の6つの性質を併せ持つものである。正誤：正
- 危険物は、燃焼性・爆発性・毒性・腐食性・刺激性・環境汚染性の6つの性質を併せ持つものである。正誤：正
- 危険物は、燃焼性・爆発性・毒性・腐食性・刺激性・環境汚染性の6つの性質を併せ持つものである。正誤：正
- 危険物は、燃焼性・爆発性・毒性・腐食性・刺激性・環境汚染性の6つの性質を併せ持つものである。正誤：正
- 危険物は、燃焼性・爆発性・毒性・腐食性・刺激性・環境汚染性の6つの性質を併せ持つものである。正誤：正
- 危険物は、燃焼性・爆発性・毒性・腐食性・刺激性・環境汚染性の6つの性質を併せ持つものである。正誤：正
- 危険物は、燃焼性・爆発性・毒性・腐食性・刺激性・環境汚染性の6つの性質を併せ持つものである。正誤：正

チェック問題
内容の理解度をクイズ形式でチェック。試験直前の復習にも使えます。

5日目 過去問で合格力を養成！

実際に出题された問題をもとにした実力養成問題で、知識を補い、合格に必要な実力を身につけます。

1 危険物に関する法令①

法令上、危険物に関する記述について、誤っているものは次のうちどれか。

① 危険物とは、法第11条の2第1項に掲げる物品で、同項に定める区分に応じ同条の性質欄に掲げる性状を有するものをいう。

② 危険物は、第1類から第6類までの区分に分類されている。

③ 危険物は、可燃性の液体だけでなく、可燃性の固体も含まれている。

④ 酸化性液体は危険物に該当する。

⑤ 法令で定める試験において法令で定める性状を示さない物質は、危険物に該当しない。

2 危険物の分類

法第11条の2第1項に掲げる危険物の類別、性質及び品名の組合せとして、誤っているものは次のうちどれか。

類別	性質	品名
第1類	酸化性液体	過硫酸アンモニウム
第2類	可燃性液体	マダニシウム
第3類	引火性液体	アルコール類
第4類	自然発火性液体	カリウム、ナトリウム、黄りんなど
第5類	自己反応性液体	特殊引火物、第1石油類、アルコール類など
第6類	腐化性液体	有機過酸化物、酸類、エステル類など

3 危険物の品名

法第11条の2第1項に掲げる危険物の品名に該当しないものは、次のうちどれか。

① 特殊引火物

② アルコール類

③ 引火性液体

④ 危険物

6・7日目 模擬試験

実際の試験と同じ形式の模擬試験を2回分用意しました。正解できない問題については、1～5日目に戻って復習しましょう。



模擬試験（第1回）

試験時間 120分

※解答と解説は202ページにあります。

危険物に関する法令

問1 法第11条に定める第4類危険物の品名について、誤っているものは次のうちどれか。

- 二硫化炭素は特殊引火物に該当する。
- アセトン は第1石油類に該当する。
- 軽油は第2石油類に該当する。
- 重油は、第3石油類に該当する。
- クレオソート油は、第4石油類に該当する。

問2 法令上、製造所等に関して、市町村長等の認可を受けなければならないのは次のうちどれか。

- 危険物保安監督者を定めたとき。
- 危険物施設保安員を定めたとき。
- 危険物保安監督者を定めたとき。
- 予防規程を定めたとき。
- 保安検査の実施者を定めたとき。

問3 法令上、品名の異なる危険物 A、B、C を同一場所で貯蔵する場合の指定数量の値を求める計算式として、正しいものは次のうちどれか。

1. $\frac{A \text{ の貯蔵量} + B \text{ の貯蔵量} + C \text{ の貯蔵量}}{A \text{ の指定数量} + B \text{ の指定数量} + C \text{ の指定数量}}$